



松田美枝さん 絵

第 230 回 例 会 1963.12.31 (火) 半晴

臨時例会場 鶴岡市馬場町 み その 亭 (3252番)

事 務 所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (1563番)

Person to Person  
Club to Club  
District to District

次 回 例 会 予 定

1月7日(火) 年頭の挨拶 池内会長

1月14日(火) 今年の株式について 小幡釧治氏

○出席報告

本 会員数 48名 欠 長谷川君、斎藤(栄)君  
日 の 出席数 40名 席 三浦君、菅原君、谷口君  
出 出 出席率 83.33% 者 津田君、渡部君、笹原君

前回の出席は修正ありません。

○司 会 池内会長

○ソ ン グ 我等の生業 リーダー 安藤君

○ビ ジ タ ー 荒井清君(酒田R.C)

○報告並びに連絡事項

○前会長佐藤(伊)君宛 Singleton R.C よりバナー、  
絵葉書、会報、新聞など沢山送付を受け、同R.C  
の当クラブに対する暖い友情に全員拍手を以つて感  
謝した。

○毎年荘内日報の元旦号に姉妹都市New Brunswick  
の関係深い代表者の写真を掲載していたが、今年は  
市長であるパウルス氏の写真と挨拶をのせることに  
準備を進めている。尚この写真は鶴岡市長室に掛け

て長く保存することになった。

○五分間スピーチ

越 年 の 言 葉 池内会長

本日は1年の最後の日であり皆様多忙な中でも多数出  
席して頂き感謝に堪えない。大晦日の例会はおそらく10  
年に1回位のものであろうがルールに従い開催したわけ  
です。

新しい役員が就任して約半年を経過したが、願れば4  
月に新理事は地区協議会で講習を受け、7月1日より現  
在の仕事についたわけです。その間9月には村上ガバネ  
ーの公式訪問があり、秋田市における1日講習会への参  
加、10月には札幌の350地区、352地区連合大会への参加  
が行われた。会員拡大については5名の新会員を迎えた  
が退会者も5名をかぞえ会員数は同数48名となつてい  
る。各委員会においても熱心な活動をして頂き、特に国  
際奉仕委員会、社会奉仕委員会の活躍は目覚ましかつ  
た。クリスマスでは親睦委員会の企画により銀婚式祝賀  
も出来て大変意義深かつたと考えます。会計面ではいさ  
さか予算超過となつたがロータリー年度の前半は入費も  
かかる時期であり、後半はそれほどではないと思う。今  
までの経験を生かし技術的な馴れもあり、任期の峠を越  
した後半は何んとか出来る見通しである。

新年に入つて会員拡大については更に一層努力して初  
期の目標たる10名位の拡大を実現したい。会員各位の絶  
大な御支援御協力をお願いする。ロータリー財団への寄  
付も100%に達し一応の面目をほどこしたわけであり、  
会員の御支援によりまあまあ大禍なく過ごしたことに  
なり各位の御尽力に厚くお礼申し上げる。

来年は会員各位の事業がよいよ発展するよう、更にロータリークラブの一層の躍進を心から期待して止みません。

## 〇一人一筆

山の遭難について 石井貞吉

鶴岡のロータリアン諸氏は山に行かされる方は少ないようですが、御家族の方やお知り合いの方で登られる方もあるでしょう。私の一生を通しての趣味の山行きを幾分でもお役にたてばと考え書いてみます。

最近交通事故や炭礦の事故など自分の注意では如何ともなし得ない事故で亡くなる方々がありますが、山の遭難は自己の心掛けで防止されると思われるのが多いようです。有名岳人の著書より一文を抜萃してみました。「彼を知り、己を知る」

数多くの遭難が各地の山でありました。その遭難の原因を詳細に調べてみたらよく判かるとは思いますが、どうしても避けられなかつたと思われるものよりも、若し登山者が山の危険をよく知っていて自分が持っている危険を常に克服して行く努力が払われていたら避けられたのではなかろうかと思われるものの方がはるかに多いのであります。この事一つから考えて見ても登山者は山が持っている危険を充分知識の上で知ることと共に自分自身山の危険をとつさの判断で知り、これを避けるだけの技術をいつでも身につけていなければならないのです。それでない遭難者タイプなどという言葉の対象になるような登山者になってしまう。孫子の兵法の中に「彼を知り己を知れば百戦して危うからず、彼を知らずして己を知れば一度は勝ち一度は負け。彼を知らず己を知らざれば戦う毎に必ず敗る。」と云う有名な言葉があります。この孫子の言葉は山の危険に対しても当てはまるとは思います。山が何んな危険をはらんでいるかを知るばかりでなく、自分の登山技術が相手の危険を充分乗り切れるかどうかを正しくつかんでいることが出来れば遭難を避けることも出来ますが、山の危険は知っていても自分の力を自惚れたり、正しく判断出来なかつたら何時かは遭難する危険があるのです。いわんや山の危険も知らない自分の山に対する力も知らないというのであれば、初めから遭難する条件を備えているというわけです。世の中には案外山の危険も知らない、自分の危険も知らない登山者が多いのではないかとと思われる。従つて残念ながらあとをたたないのが現実であります。

遭難は不可抗力的なものもありますからこれを全く無くするという事は出来なないでしょう。しかし彼を知り己を知ることによつてその数を減らすことは出来ます。「彼を知る」ということは山がどんな大自然の力を持っているかを具体的に知ることであり、己を知ることとは登山技術を基礎的のものから専門的のものまで反復練習して自分の身につけることであります。そして身に

ついている登山技術の実力を正しくつかんで、山に対して時比較して考えるだけの余裕を持てるようになることです。人間は何うしても自分を過信したがるものですから、山に対して時のこの気持は非常に大切なことでもあります。

登山者がどんなに猛烈な練習をして超人に近いほどの技術を持つたとしても相手が大自然なので、技術の限界は残念でも認めなければなりません。人間の力には限りがありますが大自然の力は限りがないからであります。その大自然の限りない力を知らず、また知つても正確につかんでいなかつたり、自分の持つ力を知らないか過信したりしておれば何時かは遭難という悲しい現実にあふつかることは充分予想出来ることであります。一言にして云うなら、謙虚な気持で山に対せということ。それが登山者としてスポーツをする人としての心の在り方だと思います。

上記の一節は誠に私も共鳴されるので抜萃して御参考に供した次第です。特に11月・12月・1月の山行きは万全を期して頂きたいのです。

## 〇幹事報告

- 会報到着 東京、本荘、八戸東、青森東各R.C
- Xマスカード到着 バット・イシエル（オーストリア）、コナ（ハワイ）、ニューポート・バルボア（米）、リエンツ（オーストリア）各R.C
- 例会日臨時変更
  - ・長井R.C 12月31日の例会を1月4日（土）午後3時に開催、会場は変わらず。
  - ・山形R.C 1月8日の例会を新年会とし午後5時より千歳館にて開く。
- 事務所、例会場変更
  - ・白石R.C 事務所 白石市沢端 白石商工会議所  
例会場 振興相互銀行白石支店
- チャーター伝達式
  - ・上尾R.C
  - ・大宮西R.C
  - ・岩槻R.C合同 { 期日 昭和39年3月25日10.00より  
会場 大宮市埼玉県営体育館  
登録料 2,500

○ニコニコ箱 大歓迎いたします。

○本日の献立 サンドウキツチ、コーヒー

## 会報委員会より報告

一人一筆欄の寄稿についてはお忙しいところ御協力頂き厚く御礼申し上げます。始めてから半年となり、誕生日を経過した会員21名中投稿頂いた方は13名（62%）を算え、随筆（6）、ロータリー処感（3）、趣味（2）論説（1）職業紹介（1）などが今まで掲載されています。残された半年の間に奮つて全員の御投稿を賜りたくお待ちしております。